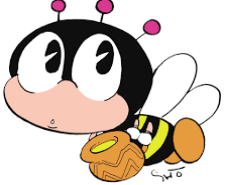


ゆきの灯り

第69号
令和4年10月発行
油木協働支援センター
TEL 82-0701
FAX 82-2228

生涯学習マスコット：マナビイ



お知らせ
福万彩名事務局員が、令和4年10月1日より「産前産後休暇」に入りました。休暇明けまでの代員については決定次第改めてお知らせいたします。

化石の日 10月15日



「にしかわ化石館」は、令和4年10月4日で開館1周年を迎えることができました。



きのこ観察会開催

9月24日(土)、昨年に引き続き朽木孝一先生(広島県きのこアドバイザー)を講師に招き、「きのこ観察会」を開催しました。

今年は台風14号の動きも含めて9月は雨に恵まれましたが、日中の気温が高く当日の朝まで「きのこ」については様子見状態でした。参加者は朽木先生から「きのこ採集時」の注意事項(特にマムシ・スズメバチ対応)を受け山へ入りました。

山は前日の雨でしっとりとした状態で、林道脇にはお目当てのサクラシメジ(アカババ・タニワタリ)が生えていました。頂上付近は赤松とどんぐり類の混合林のなだらかな地形で、参加者はそれぞれに「きのこ採集」を楽しみました。

その後コミュニティセンターに会場を移し、朽木先生による採集した「きのこ」の鑑定が行われました。今回は昨年より10種類多い45種類の「きのこ」の「食菌・毒菌」等を学び、サクラシメジ・ムラサキアブラシメジモドキ等の美味しい「きのこ」の解説や、特に誤食が多いクサウラベニダケ(毒)とウラボシテイスシメジ(食)については詳細な解説と指導を受けました。

今回は「きのこ」の始めでしたが、日中の気温が下がる時期になれば本格的な「きのこ狩り」も楽しめそうです。

「きのこ観察会」は、今年も赤木卓司さんの持山を開放していただき開催することができました。「協力に感謝します。ありがとうございました。」



「きのこ観察会」は、今年も赤木卓司さんの持山を開放していただき開催することができました。「協力に感謝します。ありがとうございました。」

まちの宝として「声」を活かしたい!

- 施設について
 - 展示場所が狭い。○楽しい施設なので全面的に宣伝を。
 - 地域を巻き込んだイベントの拠点に。
 - 活動として
 - 土日の活動を。○定期的イベントの開催。○継続することが発展につながる。○出前展示・講演を実施する。○出前講座等、とても身につく学習で素晴らしい。○各学校への出前講座を。
- 行政との連携について
 - 町として積極的に関与してほしい。○イベント予算の獲得。○地域を盛り上げるため、まちづくりや生涯学習の面から講演会等の開催を。○町HPへの掲載やリンク等の活用を。○広報活動にもっと力を入れてもらいたい。
- 他市町の社会教育施設との連携について
 - 連携よりは町立にすべき。○まずは「比婆科学振興会」と連携する。○他市町の公民館等へ周知をより行う。○県立自然史博物館の設立に向け活動をしていきたい。○近隣の学校とも連携していくと良い。
- その他の意見
 - 何かきっかけがなければ来ることがないかもしれない。○学校の授業の一つとして活かせると思うが、交通費等の予算が問題である。○ひっそりとしている感じがもったいないと思う。○もう少し展示物を増やしてほしい。○理科・地学のカリキュラムに組み入れて野外観察もセットにすれば良い。○将来「博士ちゃん」が現れることに期待。○さらにわかりやすい展示方法の工夫を。○コロナ禍で規制も多いが、せっかくなのでしっかりと活用を。

「にしかわ化石館」は増築工事を行っています。ご迷惑をおかけしますが、施設見学は可能です。



9月のゆきキッズ

9月の「ゆきキッズ」は3回開催され、子どもたちはさまざまな活動を体験しました。

□料理教室(9月3日)

大西智子先生の指導で、「クッキー作り」に挑戦しました。低学年の子どもたちは生地を絞り出して型を作る作業が難しかったようですが、上級生たちがしっかりと関わってくれました。

□お茶教室(9月10日)

小田緑先生と神石高原町女性会油木支部の皆さんの指導で、2回目の「お茶教室」を開催しました。今回は「お月見茶会」がテーマで、子どもたち自身が活けた生花を床に飾り、盆手前の所作を学びました。

□ものづくり教室(9月24日)

松岡純夫先生の指導で、粘土を使つての「入れ物作り」に挑戦しました。今回の教室で作った作品は乾燥後、焼成窯で焼いて素焼きの「菓子器」等の容器として実際に使用することができます。



地域遺産再考

9月10日(土)、「帝釈峡遺跡群発掘60周年記念シンポジウム」(会場:東城文化ホール)が開催されました。

午前中は苅谷俊介さん(俳優)・古瀬清秀さん(広島大学名誉教授)の講演、午後からは神石高原町を代表して宮野元壮さん(ながの村自治振興会長)も参加してのパネル討論が行われ、「帝釈峡遺跡群の歴史的价值と現状・今後の方向性」等、登壇者がそれぞれ立場から熱い思いを語られました。

「人類学・考古学」や「自然科学」だけではなく、各地域に遺る多くの「宝・文化」に対する意識や感性を再考する必要がありますと感じました。



令和4年度 各事業チームの活動状況 ー前期ー

□福祉部会		
福祉部門	7/04	協議: 高齢者ニーズ把握について
	8/30	協議: アンケート項目の検討について
自主防災	7/24	安田地域自主防災研修会
□農商推進部会		
わくわく農業	4/11	協議: 買物支援アンケートについて
	6/10	協議: ゆき百彩館について
	7/23	協議: ゆき百彩館について
□地域づくり部会		
地域情報	4/22	協議: 文化財マップ作成について
	6/13	協議: 文化財マップ内容について
	7/27	協議: 文化財マップ内容について
	9/28	協議: 文化財マップ内容について
□ゆきなび(生涯学習)部会		
化石魅力化	5/16	協議: 大人の化石教室・公民館等活性化モデル事業・化石館増築について
	6/27	協議: 大人の化石教室・公民館等活性化モデル事業・化石館増築について
	8/05	出前講座: ふくやま子育て応援センター
	8/09	公民館等活性化モデル事業
	8/10	公民館等活性化モデル事業
	8/22	大人の化石教室(松岡敬二先生)
文化イベント	9/08	協議: 文化イベント開催について
	9/28	協議: 文化イベント開催について
伝統文化伝承	5/29	安田亀山八幡神社撮影
大人の教室	5/25~	各教室で事業実施中
ゆきキッズ	5/28~	各教室で事業実施中

「ゆき百彩館」閉館

「ゆき百彩館」が令和4年9月30日(金)を以て閉館することになりました。

「ゆき百彩館」は、平成11年7月営業開始以来、地元の野菜や特産品の販売を中心に、油木地域の活性化や地域の方々の生活を支えてきました。

また、「ナマズ食堂」等、油木高等学校生徒の実績発表の場としても、なくてはならない施設だったと思います。油木協働支援センターも農商推進部会の活動を通じて「軽トラ掘り出し市」の開催等による連携もあつただけに、今回の閉館は残念でなりません。

今後の方向性については、不透明な部分もありますが、動きに注目していきたいと思えます。



軽トラ掘り出し市 (R3.11.3)

令和4年度「協働のまちづくり事業助成」 ー前期ー 審査会 結果報告

◎城山自治振興会
 城山地区集会所エアコン設置工事
 申請理由: 災害時等避難所・地域活動実施場にエアコンを設置することで、高齢化に対応した拠点施設とする。
 助成金額: 385,000円 ※可決

【認知症講演会】(演題: 認知症になっても地域で暮らし続ける為に)

日時: 令和4年10月28日(金) 13:30~15:30 ※申し込みが必要です。

講師: 中司登志美先生(福山平成大学)

会場: 神石高原町役場 大会議室1(メイン会場)

Web配信: 油木協働支援センター

じんせきの里

とよまつ総合センター

お問合せ・申し込み
 保健福祉課高齢者福祉係
 地域包括支援センター(89-3377)
 締切: 10月20日(木)



神石高原町文化連盟 油木ブロック総合文化祭 美術部門

会期: 令和4年11月24日(木)~27日(日) 9:00~17:00(最終日 9:00~15:00)

※最終日14:00~ Gerlia(ガ-リア)によるミニコンサート開催

会場: 油木山村開発センター

内容: 会員・油木保育所・油木小学校・神石高原中学校・油木高校の美術/書道の作品展示

主催: 神石高原町文化連盟油木ブロック 後援: 油木協働支援センター

Squash Lesson!

いよいよ11月13日(日)が本年最後のレッスンです。この機会に心地よい汗を流しましょう。

油木コミュニティセンター2F 好評開催中!!



ー読書 「1日20分読書」運動 いつも身近に1冊の本をー (参考: 鹿児島県教育委員会社会教育課「かごしま家庭教育ナビ」)

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上でとても大切なものです。

乳幼児 家族と一緒に20分

乳幼児期の子どもには、読み聞かせなど家族の協力がが必要です。家族一緒に読書の習慣をつくりましょう。

小学生 朝読み夕読み20分

小学生の時期は、言葉や意味を考えながら音読することが大切です。朝や夕方の音読を続けましょう。

読書が好きな児童の方が、全国学力・学習状況調査での正答率が高い傾向が見られ、子どもの頃の読書活動が多い大人ほど、ボランティア活動に参加している人が多い傾向にあります。(全国学力・学習状況調査/子どもの読書活動とその影響・効果に関する調査研究)

中学生 ジャンルを広げて20分

中学生の時期は、読書の幅を広げることが大切です。文学・科学・歴史・郷土など様々なジャンルの本に幅を広げて読みましょう。

高校生 自分を見つめる20分

高校生の時期は、自分自身の生き方を見つめるためにも読書が必要です。いつも身近に1冊の本を置き、1日20分の読書を心がけましょう。

ー 標語 「この一冊に、ありがとう」 ー



読書週間 (10/27~11/9)



☆地域で子どもを見守り育てましょう(油木協働支援センター)